

台風接近に伴う農作物等の〈事前・事後〉管理対策について

令和6年8月22日
JA徳島県 営農指導部

- 台風の接近（襲来）に備え、事前に管理対策をしましょう（雨前に排水路の確認を）。
- 最新の気象情報を確認し、対策をしていただきますようお願いいたします。
- 事故防止の観点から、圃場の見回り等については、気象情報を十分に確認し、台風経過後も注意して行ってください。
- * 大雨中は、非常に危険なので、用排水路には近づかないようにしましょう。
- 薬剤を使用する際には、ポジティブリスト制度の対応を行い、農薬安全使用基準を遵守しましょう。

1 水 稲

（事前対策）

- 1) 成熟期に達しているものは速やかに刈り取りましょう。
- 2) 強風による稲株のゆれや葉先の損傷などをできるだけ少なくするために、深水管理に努める。
- 3) 冠水が予想される場合は、排水路、排水口の整備を行い長時間冠水しないように心がける。
- 4) 刈り取りを終えた田は、稲わらの流出を防ぐため、耕耘（すき込み）を行う。

（事後対策）

- 1) 浸水、冠水した圃場では、水路のゴミを除去し、濁水の排水に努める。
- 2) 台風による暴風は、稲の表面から多量の水分を奪い、茎葉に損傷を与えるので水田に水を入れる。
- 3) 収穫まで日数があり、いもち病等の発生が懸念される場合は適正防除を行いましょ。

2 野 菜

（事前対策）

- 1) 果菜類は、支柱及び防風ネットを補強する。〈Mサイズ以上のものは収穫しましょう〉
- 2) 冠水や浸水のおそれのある圃場は、排水溝を整備しておく。
- 3) いちご等、育苗中のものは寒冷紗等で“べたがけ”被覆しましょう。

（事後対策）

- 1) 浸冠水した圃場は早急に排水に努め、適正水分に戻しましょう。
- 2) べたがけ被覆していた圃場は、台風通過後できるだけ早く資材を除去し、茎葉に付着した泥は水で洗い流しましょう。
- 3) 風雨害による傷葉を除くとともに、各作物の防除基準に基づいて薬剤散布を行いましょ。
- 4) 株元が露出したり、降雨により土壌が締っていたら、天候の回復を待って株元へ土寄せをするとともに、畦全体を軽く中耕し通気性を良くしましょ。
- 5) 樹勢回復を図る場合は、薄目の液肥施用や葉面散布を行いましょ。（肥料の流亡が考えられる場合は、樹勢回復後に速効性の肥料を追肥しましょ。
- 6) 施設栽培では、風が弱まった時点で速やかに換気を行い天候回復後の高温障害を回避しましょ。

3. 果 樹

〈事前対策〉

- (1) 風が当たりやすい園地は、防風ネット等を予め設置しておく。広い園地は、園内を区切って防風ネットを設置する。
- (2) 棚栽培は、鉄パイプや支柱等を設置して落果や擦傷を減らす。
- (3) 幼木等の倒伏し易い樹は、支柱を立てて固定し、倒伏を防止する。
- (4) 排水溝設置と清掃を行う。
- (5) ハウス栽培で、ビニールや防雨ネットを被覆している場合は、取り付け金具の締め直しやマイカー線の固定、側杭の補強を行う。ハウス周辺に排水溝を設けておく。強風時にはハウスを密閉し、換気扇を作動させる。
- (6) ビニールやネット等を残す場合は、ひもで束ねて強く縛る。強風が予想される場合は、予め除去しておく。

〈事後対策〉

- (1) 溝切りや排水溝の清掃を行い、速やかな排水に努める。特に、果実が結実している場合、早期排水と土壤乾燥に努め、冠水、湿害の発生を回避する。
 - (2) 折れた枝は、切り直して癒合促進剤を塗布する。主枝、亜主枝等の枝裂け部は、縄などで縛り癒合を促進する。
 - (3) 倒伏樹は、立て直して支柱等に固定し、土寄せする。
 - (4) 特に、かんきつの、かいよう病、黒点病等は、風雨によって発生が助長されるので、防除基準により適宜防除する（他果樹においても、防除基準により病害防除を行う）。
- 大雨・台風後は、根及び葉は傷んでいるので、殺菌剤単用処理で、丁寧に散布。
樹勢回復のため、葉面散布を行うと良い。

4. 花 卉

（事前対策）

- 1) 圃場の冠水対策を行い、湿害発生を回避する。
- 2) 露地花卉はネット等の支柱を補強し、倒伏を防ぐとともに、必要に応じ暴風ネット等を張り、風による損傷を軽減する。
- 3) 鉢育苗中の苗等は室内に取り入れ・ネットをかける等して鉢の飛散や茎葉の損傷を防ぐ。
- 4) 施設の、マイカー線の締め直し、側杭の補強等ハウスの点検・補強を行い、強風時にはハウスを密閉し、換気扇を作動させる。

（事後対策）

- 1) 冠水した圃場は速やかに排水し、中耕を行い根の回復をはかる。
- 2) 風雨による土の跳ね上げや冠水で汚れがある場合は水洗し病害発生を防ぐ。
- 3) 暴風対策で室内等に入れた苗等は台風通過後早めに戻し、防風対策でべた掛けしたネット等を除去する。
- 4) 転倒・転落した鉢は速やかに復旧手当を行ったのち、病害防除を行う。
- 5) 施設では、風が弱まったら速やかに換気を行い、天候回復後の高温障害発生を回避。
- 6) 湿害等で根が弱っている場合には、適期に液肥の葉面散布などを行う。

5. 畜 産

（事前対策）

- 1) 屋根・カーテン・構造物など今一度点検し、家畜に被害がないようにしましょう。
トタンなどが風で大きな音を出すと家畜に不安感を与える恐れがある。飼料置き場、堆肥舎など点検し、濡れたり、流出しないようにシートで覆う。

（事後対策）

- 2) 畜舎内への浸水が発生し、病気の発症等が疑われる時は直ちに診療を受ける。
- 3) 畜舎や施設等破損した場合は早急に補修する。